

地方航空路線活性化プログラム及び着陸料の提案割引制度の評価等に関する懇談会
(第3回)
議事概要

日 時：平成26年7月30日(水) 18:00～18:50
場 所：合同庁舎3号館4階 特別会議室

○地方航空路線活性化プログラム

【採択路線について】

評価結果で示した上位8路線を採択することで合意した。

(委員からのコメント)

- ・本プログラムの趣旨は、代替交通機関が無く需要が無くなってきている路線に対して何らかの措置をすることであると認識している。羽田-能登路線については、現在の需要が13万人と十分に大きく1便3便ルールもある中で、需要の低下に対する更なる支援をすることは趣旨とは適合しないのではないかと懸念する。
- ・将来新幹線が整備されることによる需要低下を懸念しての支援は、公正な競争環境を歪めることになることを懸念する。
- ・羽田路線の諾否や他の交通機関との競合路線については、路線要件や評価基準を決定する段階で決めるべきである。ただし、アクセス条件は多様で、それのみで評価はできない。
- ・本プログラムは補助が目標ではなく、地域にアイデアを出していただき、成功すればモデル的取組として将来的に活かしていただくことにあると認識している。羽田-能登路線も将来的に代替交通機関との競争により維持が脅かされる路線が出てきた場合のモデルケースとなるとも捉えられるのではないかと懸念している。代替交通機関との競争関係に影響を及ぼすことへの懸念は同意できる部分もあるので、協議会に留意してほしい旨は伝えるべきであると思う。
- ・今後の路線維持に関わる制度整備の際は、羽田路線と代替交通機関と競合している路線の取扱いについて課題として留意していただきたい。

【配分方法について】

(少額申請路線を含め)原則3,600万円を均等配分し、プール金額は、特に評価の高い路線(小牧=山形)に全額を増額配分することで合意した。

(委員からのコメント)

- ・増額分の費用対効果を得る結果が出てくることに期待したい。

【公表方法について】

採択した8路線について、国土交通省のホームページ上で路線名、提案者名、提案の概要、委員の評価（匿名）及び委員コメントを公表することで合意した。

○その他自由意見

- ・ 評価者の視点で評価基準が異なるが、個人的には代替性は勘案するが重要ではないと思っており、モデル性が重要であると考えている。
- ・ 実際に取り組を実施していく段階で新たに浮上する課題を乗り越えていく体制の構築、双方の地域間のビジョンの共有ができているのかが重要であると考えている。感想として、提案の殆どが価格訴求力に依存する傾向があったことが興味深い。
- ・ 地域毎にプレゼン能力の差が出ていた。結果を公表することで、より自分の地域を分析し、勉強する機会になれば良いと思われる。各委員のコメントも公表し、今後よりいい提案ができることを期待する。
- ・ 取組が上手くいけばモデル性を示すことになると考えており、地域の独自性が強い提案と普遍性が強い提案のどちらを評価するかが悩ましかった。
- ・ 成功事例が一人歩きするが、失敗事例もとりあげるべきである。今後2年後、3年後も失敗した取組についても分析していくことが重要である。評価をした感想として、提案様式や枚数を限定する必要はないが、別添資料が多いことは非常に見辛く評価者が労を要する。また、多くの提案書における取組成果の効果検証方法が旅客実績のみであったため、もっと工夫していただきたい。
- ・ モデル性は重要といったものの、地域の独自性があるため適用というより参考程度になれば良いと考えている。提案の感想について、取組内容に対する真偽が問われる提案が沢山あった。また、分析の視点が限定的であり、他が見えていないことも見受けられる。今後取組をする上で重要なのは実効性であり、取組に対しての努力や、PDCA サイクルによる見直しが重要であると考えている。

（以 上）